

## 第8回 双葉町復興推進委員会 議事概要

■日時：平成26年6月26日(木) 午後1時00分～4時30分

■場所：双葉町いわき事務所 2階大会議室

■出席者：別紙座席表のとおり

## ■議事概要

## 1. 開会

## 2. 議事

## (1) ワークショップ

テーマ：双葉町の将来像について

上記のテーマで、帰還の条件を踏まえて、①計画（戦略を実行していくための具体事業）②戦略（ビジョンを達成するために必要な取り組みの方向性）③構想（復興の理念、まちの将来像）の3つの観点から委員を3つの班に分けて座談会形式（ワークショップ）にて議論を行った。

## ※ワークショップについて

- ・班ごとに自由な議論を行う。
- ・各委員の意見はカード(付箋紙)に書いて班内で共有できるようにする。
- ・意見(付箋紙)を集約し、班ごとに模造紙にまとめる。

## (2) ワークショップのグループ成果の発表

## ○ 各班より模造紙にまとめた成果を発表

各班が模造紙にまとめて発表した意見は以下のとおり。

※ 【カードに書かれた意見】は事実誤記等を含めて、カード(付箋紙)に記入されている原文を尊重して整理した。

## B班

委員：岩本・石田・大橋・横山・松本・高田

## B班の発表の要点：～人の集まる双葉町～

- 帰還の時期が漠然としている状況で将来を考えることは、空想・妄想である。
- 子どもたちのために震災の記憶を残すための取り組みや施設が必要である。
- 高齢化、介護職員が不足しており、全双葉町民で支えるための補助が必要である。
- 大学や研究所、自然エネルギーなどの新産業の誘致を行う。
- 体験型、学習型の宿泊施設によって交流人口の増加を促す。

【カードに書かれた意見】

### 《帰還の条件》

- 帰還の時期を明確に打ち出さないと将来は語れない。
- 帰還があまりにも漠然としている（空想・妄想・現実）。
- 中間貯蔵施設の問題が頭から離れない。
- 若い人に復興計画を担ってもらわないといけない。
- 子育て世代は「今」が大事なので拠点がほしい。
- ハード面は予算でどうにでもなってしまう、ソフト面は我々で出来る。
- 将来像を何年後か毎に区切って考えたい。

### 《復興の計画・戦略》

- 子どもの意見を取り入れる。
  - ・安全、安心な帰還の条件など今の子どもたちの意見を聞くべきである。
  - ・小学高学年は双葉町を覚えているが、低学年はわかっていない。
  - ・子どもたちの意見はたくさん出てくるはずなので、世代別で整理すべきである。
- 双葉町の記録を残す
  - ・共同墓地をつくる。
  - ・震災を忘れないように記念日をつくる。
  - ・記念館や資料館に記録を残していく。
  - ・原子力の歴史を映像で見ることが出来る施設をつくる。
  - ・「エンディング」自分史をつくり全世帯全員に配ってみる。家の記録を残す。
  - ・双葉の歴史と個人の家々の記録も残していく。
- 高齢者対策に若者の人材育成を
  - ・高齢化、介護職員の不足を全双葉町民で支える必要があり、全双葉町民が資格を取得できるような補助や専門学校があると良い。

### 《構想・まちの将来像》

- 大学や研究所を誘致する。
  - ・災害の状況を見たい人がいる（消防関係）。
  - ・原爆ドームのように現状を残して、関心の高い外国人を呼ぶ→現状を売りにする。
  - ・双葉町は農村地帯の町だったが、原子力発電施設が入ってきた。
  - ・大学（農学部）誘致→双葉町は農村だったので（農学系の）研究所があると、双葉町が元の農村地に戻るかも。
  - ・大学+研究施設＝文系も理系も集まり、人が多く集まる。
  - ・双葉町は研究施設を作るのに向いている地域である。

- ・研究の建物を双葉に移していく。
- ・双葉町に入って研究したい人がいる→興味のある人を呼ぶ（観光）。
- 新産業の誘致
  - ・帰還できるようなところに産業が出来るのなら、太陽光発電などを作る。
  - ・自然エネルギーの基地づくり。
- 体験学習でもてなす
  - ・産業施設のそばに宿泊施設を設置する。
  - ・体験型、学習型の広い宿泊施設を設置する。
  - ・自分達でまかなえる体験施設。
  - ・来客と交流人口を増やすためのモノを作る（観光）。

## C班

委員：木藤・岡村・山本・齊藤・伊藤・川原

### C班の発表の要点：～ふるさと帰還への夢をたくして～

- 中間貯蔵施設問題の行く末が心配であり、帰還を希望する人達は、理想と現実のギャップで苦しんでいる。
- 中間貯蔵施設の30年という期間を双葉町の人材育成の期間と捉え、文化の継承・ハイレベルな産業の育成に力を注ぐべきである。
- 廃炉関連産業やサービス産業を国策で推進し、若者の雇用を創出する必要がある。
- 双葉町民の心を癒す場所（リトル双葉）を早く作り、双葉町を取り戻すという気持ちを将来の子ども達へ継承したい。

#### 【カードに書かれた意見】

##### 《帰還の条件》

- 中間貯蔵施設問題が大きい。
- 中間貯蔵施設の有無で復興の仕方が変わっていく。
- 中間貯蔵施設の影響が心配である。
- 双葉町単独での復興は難しいのではないか。
- 避難先では双葉町の情報が入ってこず、悲しい。
- 1次産業の復興は難しいのではないか。
- モノづくりは風評や実害の問題がある。
- 帰還を希望する人達は理想と現実のギャップで苦しんでいる。

##### 《復興の計画・戦略》

- 人材を育成する
  - ・子どもたちのために学校を再開する。

- ・学校再開によって双葉町の人材育成を進めて行く。
- ・中間貯蔵30年という期間は人材育成の期間とする。
- ・ハイレベルな人材育成、産業を選ぶべきである。
- 文化を継承する
  - ・双葉町のロゴマークを見ると安心する。
  - ・だるま、せんだん太鼓など文化を継承する。

### 《まちの将来像》

- 新産業の誘致を国策で長期で取り組む
  - ・データセンターなどを国策で誘致する。
  - ・サービス産業（モノを作らない産業）を誘致する。
  - ・3次・6次産業を誘致する。
  - ・バイオ発電に取り組む。
  - ・新産業（放射能関連）を誘致する。
  - ・放射能産業でピンチをプラスに変える。
  - ・まずは国策で産業を誘致する。
  - ・若者が戻って来られるように働く場所を確保する。
- 子ども達の教育に取り組む
  - ・将来の子どもたちに「ふるさと」というイメージを伝える。
  - ・双葉町を取り戻すという気持ちを継承する。
  - ・若い人達が戻って来られるようなまちづくり。
  - ・町民出生への助成・支援をおこなう。
- 双葉町の拠点をつくる
  - ・双葉の新都市をつくる。
  - ・商業施設、病院、金融機関などが一カ所にあり、近くに公園や憩いの場があるまちづくり。
  - ・町民の心を癒す場所をつくる。
  - ・居住できる施設（低線量地域）があると良い。
  - ・拠点を広域合併する。
  - ・いかに早く双葉町の核をつくるかが重要である。
  - ・将来の復興まちづくりの姿を早く作るべき（帰還の気持ちがあるうちに）。

## D班

委員：谷・田中・小畑・菅本

### D班の発表の要点：～絆の継承～

- 中間貯蔵施設の問題があり帰還が困難である現状を考えると、帰還しない方向での検討も必要であるのではないか。
- 双葉町を「ふるさと」として継承するために、双葉町民の絆を町内外でも感じられるようなシンボルが必要である。
- あくまで理想ではあるが、太陽光発電などのエネルギー研究所を誘致し、将来の子どもたちの雇用を創出したい。

【カードに書かれた意見】

#### 《帰還の条件》

- 中間貯蔵施設の有無が重要だ。
- 帰還は10年、20年、30年先なのか、何年後なのか。
- 自分達がいらない将来のことを考えて、実現するのか。
- 帰還まで待てない。
- 自分達世代が帰らないと子どもたちも帰らないのでは。
- 20年は帰らないつもりだ。
- 帰るといふ人がどれ位いるのか。
- 帰れない方向で検討する必要がある。

#### 《復興の計画・戦略》

- 風景やシンボルで絆を強める
  - ・「双葉町」の名前を地図に残したい。
  - ・双葉町の駅にあったからくり時計などを復興公営住宅、リトル双葉にシンボルとして設置する。
  - ・町外で双葉町の風景を復活させる。
  - ・絆は双葉町の内でも外でも感じられるようにすべきである。
  - ・ふるさとは失くしたくない、だから町外でリトル双葉を。
  - ・子どもの記憶が薄れないようにGoogle Mapで双葉町の風景を見せる。
  - ・お墓参り。
- 近隣自治体との絆を強める
  - ・帰れる状態がつくられている。
  - ・近隣の町がどう発展するか。
  - ・近隣の町が一緒に形成（浜通り）。

#### 《まちの将来像》

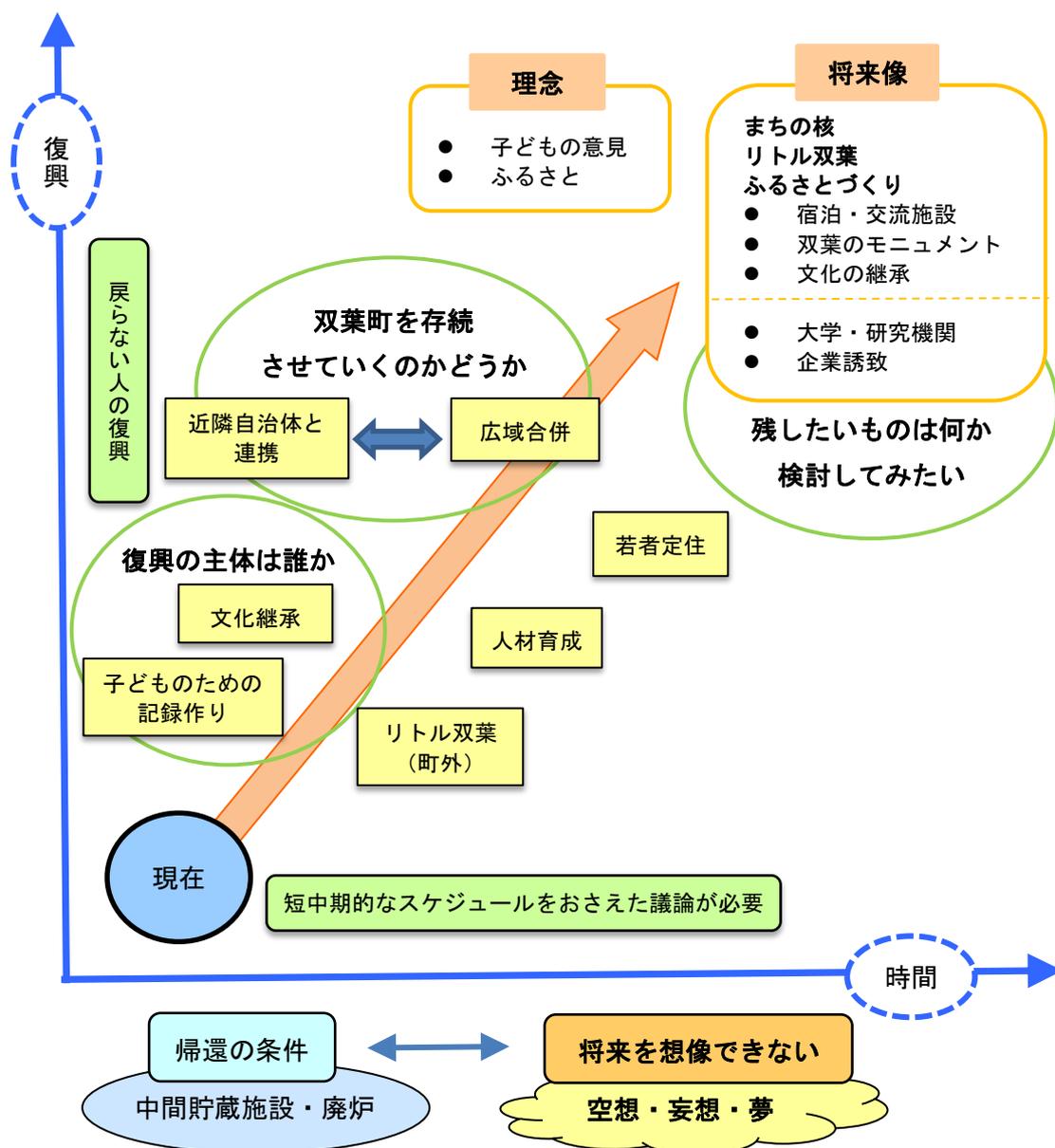
- あくまで理想ですが

- ・ 都会から観光客が来る。
- ・ 企業誘致（30年後くらいかかるのではないか）。
- ・ 働く人、場所が出来る。
- ・ 双葉の子どもたちも働きにくること。
- ・ 海を使ったレジャー施設をつくる。
- ・ 住居を構える。
- ・ 太陽光発電などのエネルギー研究所を誘致する。
- ・ エネルギー研究所は浜通りの人達ではなく県外の人達が始めること。
- ・ 県内外に「新しい双葉町」をつくる。
- 他地域で生活を再建する
  - ・ 戻らないと決めて他の地域で再建に注力したい。
  - ・ 住民が戻らないと自治体がなくなってしまうのではないか。
  - ・ 双葉町内でもシンボルを残したい。

## 今回の座談会（ワークショップ）のまとめ

○各班の発表を受けて、コーディネーター金子氏が全体のまとめを行い、以下のとおり説明した。

- 中間貯蔵施設・廃炉の問題があり、双葉町の復興と同時に、帰還しない人達の復興も考える。
- 双葉町単独での復興だけではなく、近隣自治体との連携を行う。
- 人材育成・産業の発展を行い、若者の定住を目指した計画を立てる。
- ふるさとづくりのため、双葉町の文化や震災の記録など未来に残したいものを検討し続けられる双葉町の核（リトル双葉）をつくる。



- 各班の発表に対して委員間の討議を行った。
- 現状からは、妄想・空想でないと議論できないが、議論から出てきた結論は、未来永劫続く妄想ではない。子どもたちが大人になったときにどのような町を残していきたいか、具体的にどのようなモノを残していきたいか考えたい。
- 町民の皆さんが双葉町とは何かを考え直していること、双葉町をどのように存在させていこうと考えており、その案として、文化の継承や原爆ドームのような資料館を設けるという意見が印象に残った。
- 将来像を語るうえで「誰が」やるのかという問題が重要である。
- 中間貯蔵施設問題はマイナスではなく、放射能関連の産業や研究所誘致などプラスに考えてほしい。
- 子どもとは常に双葉町（ふるさと）を忘れないでほしいという気持ちで接している。双葉町のHPで地図を見て記憶を薄れないようにしている。将来的にも、現状（双葉町の将来を考えている）を受け継いでいってほしいと思っている。
- 戻れないことを前提にした復興計画を、双葉町としてはどのように考えているのか。戻れないという私たちの運命（現状）を受け入れて短期的・長期的な復興計画を考えるべきではないか。
- 長期ビジョンを今後どのように策定していくのか。
- 区長会の会長も会議に参加してほしい。

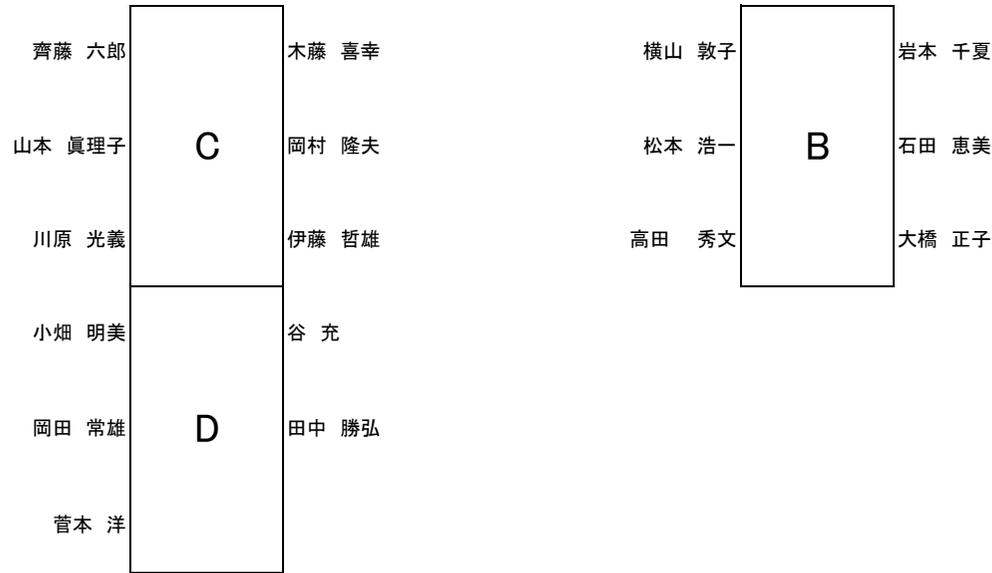
以上

# 第8回双葉町復興推進委員会座席表(グループ発表・全体討論)

(敬称略)

1 日時 平成26年6月26日(木)  
13:00~16:30

2 場所 双葉町いわき事務所 2階大会議室



復興庁  
石川 悟  
参事官補佐  
  
復興庁  
福島復興局  
米山 治介  
参事官  
復興庁  
福島復興局  
須田 亨  
参事官補佐  
福島復興局  
いわき支所  
林 文之  
次長  
福島復興局  
いわき支所  
横山 大輔  
参事官補佐  
福島県  
避難地域復興課  
根本 朝彦  
主査

猪産 狩業 建設 課長 浩	山税 本務 課長 一 弥	平秘 岩書 広報 弘課 長	船総 来務 課長 丈 夫	武総 内括 参事 裕 美	半副 澤町 長 浩 司	間委 野員 長 博	芥川 一 則	半教 育長 淳	松住 本民 生活 課長 英	志生 活支 援課 長 睦	大健 住康 福祉 課長 重
---------------------------	--------------------------	---------------------------	--------------------------	--------------------------	-------------------------	--------------------	--------------	---------------	---------------------------	--------------------------	---------------------------

事務局(復興推進課)			事務局(復興推進課)			事務局(復興推進課)			事務局(復興推進課)		
小支 山援 員 勲	西主 牧事 孝 幸	山副 下主 査 明 弘	橋主 本査 靖 治	細課 澤長 補 界 佐	駒課 田長 義 誌	今教 育総 務 一 課 長	山議 下会 事 務 局 長 正 夫	半会 谷計 管 安 理 子 者	由支 波援 員 大 樹	伊支 藤援 員 壽 紹	山支 中援 員 啓 稔